

完熟堆肥・未熟堆肥・化学肥料による生育と品質比べ

その2 後半に大逆転 球の大きさ、しまり、糖度に効果ありあり

12月22日、試験キャベツの最終調査日です。ルートボックスとプランターでの栽培のため、根の張るスペースが限られており、畑のように大きなキャベツには育ちませんが、結球がすすんで収穫期を迎えています。

■ 球の大きさ、根のちがいが明らか

生育を比べると、株の大きさ

でも、ルートボックスに見る根の張りかたでも、ついに完熟堆肥区がトップにたちました（上の写真）。

株の直径は、化学肥料区を100とすると、完熟堆肥区118、未熟堆肥区106。重さ（外葉を1枚つけた球重）は、完熟堆肥区117、未熟堆肥区98。前半に化学肥料区が大差でリードしていたことからみると、大逆転・大健闘といえます。

そこで、前回すでにパワーの違いが現われていた根を見ると、下の写真のように大差があります。完熟堆肥区は白く元気な根が下層までたくさん伸び、土の粒子をつかむ細根もたくさんあります。これに対して、化学肥料区はすでに根が消失し表面にわずかしきありません。それで株の健康もそこな



結球したキャベツ、12月22日。
左から完熟堆肥区、未熟堆肥区、
化学肥料区。完熟堆肥区が大逆転



化学肥料区には、菌核病や黒腐れ病の症状も

根の量と活力がまったくちがう



完熟堆肥区



未熟堆肥区



化学肥料区